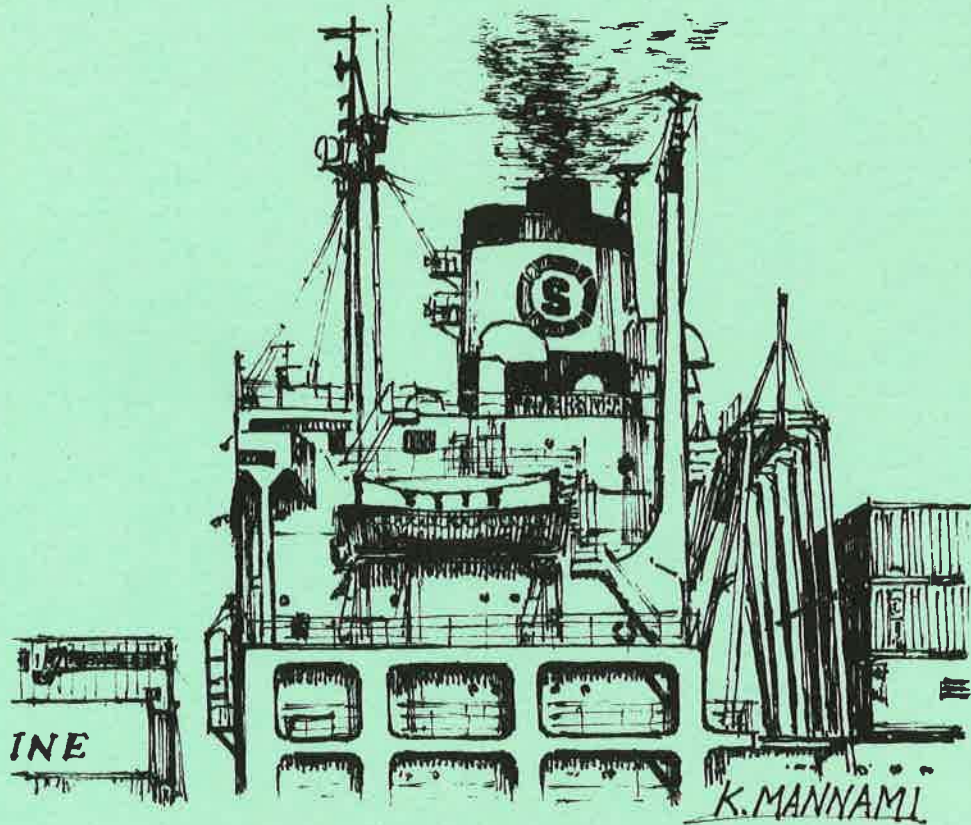


月刊・ブルーアンカー

Blue Anchor



HOTAKA MARU

第5号

海文堂書店 1982・6【5】

〒650 神戸市中央区元町通3-5-10

(電)

目次

ピノチオとピノキオ	植村達男	2
汽笛(中)	角本稔	3
ぶっく・えんど		7
郷土誌の窓		9
海文堂案内版		14

ピノチオとピノキオ

植村達男

私が幼年時代の昭和二〇年代の中頃、子供用の雑誌（「幼年クラブ」？）でピノチオの話を読んだ。次いで中学生だった昭和三〇年前後に、ディズニーの漫画映画「ピノキオの冒険」を母と一緒に見に行ったことがあった。そのとき、何故「ピノチオ」が「ピノキオ」になったのか、なんとなく気がかりであった。

この小さな疑問は、私が大学四年生のとき、六甲登山口から少し登ったところにある六甲会館でイタリア語を習ったときに、ようやく解決した。ときに昭和三八年のことである。

すなわち、「ピノチオ」は誤りで、「ピノキオ」（または「ピノッキオ」）が正しいのである。イタリアの作家コロディによる木の人形の物語の主人公の名前は Pinocchio である。イタリア語では、chi pi (ki)

と発音するからである。

思うにピノキオの物語が初めて邦訳されたのはイタリア語から直接ではなく、(多分)英語からの重訳であったのではなからうか。もし、訳者に多少なりともイタリア語の知識があれば、Pinocchio を「ピノチオ」とは訳さなかつた筈である。英語の単語の character を、平気でチャラクターと発音する大学生も居ることだし、「ピノキオ」を「ピノチオ」と訳した先人に対して、あまり眼くじらをたてても、仕方がなからう。しかし、この問題は、私にとっては八年振りに解決されたことなのである。

ちなみに、東京都における最近の電話帳(昭和五六版・東京二三区・企業別)では、ピノキオを冠する喫茶店・洋品店等が、四四店、ピノチオのそれが四店ある。また、神戸市内ではピノキオが五店、ピノチオが一店ある。

汽笛(中)

神戸観光汽船船長 角本 稔



最近港から船の汽笛が余り聞こえなくなった原因の第一に考えられるのが、船の出入港の際のタグポートとの交信に、汽笛を使用しなくなったことにある。

昭和三十八年、今から十九年前まで双方の意思表示の交信に使用していたものが、三十九年より「簡易無線機」(トランシーバー)が登場し、これを水先案内人とタグポートの航海士が一個ずつ持ち始めたのである。

汽笛では大まかな信号しか行なえなかつたことが、トランシーバーになるとお互いの会話であるから細かな意志の伝達ができ、その上、伝わって来る声質により、相手がほぼ判明するので、お互い操船上の癖までもが把握しあえ、ぴったりと呼吸の一致した作業が行なえる。その便利さが買われ急速に普及して行った。現在では港に活躍するタグポート四十隻が全部設置していて、さらに感度の向上した業務用無線に変わってきている。

しかし入港して来る船も、昭和四十二年九月からコンテナ専用船が登場し、我が国の高度経済成長と共に、外国と貨物交流が盛んになるとあいまって、専用船も大型化につぐ大型化で、昭和四十七年～五十一年にかけ

て、世界的に四万七、五万九千というような馬鹿でっかい船の登場となった。例えば世界的にも一、二位を競う日本郵船のコンテナ専用船の「春日丸」は、五七、五〇〇総噸、全長二八九、五m、幅三十二m、深さ二十四、三mと、超ジャンボサイズである。それに現在、川重神戸造船所でシリーズとして建造中の鉦炭船でも、一三四、〇〇〇重量噸、全長二七〇m、幅四十三m。去る昭和五十三年春に入港した人気の英国「クイーン・エリザベスⅡ世号」も、六七、五〇〇総噸、全長二九三m、幅三十二、二mと大変なサイズである。現在はアルゼンチンとの領土争いのために軍事徴用船と化し、設備を変えて兵員を輸送している。神戸港とも大変かかわりが深く残念に思うのだが、神戸入港の際にはベテラン水先案内人二名が乗船し、タグボート四隻が応援するという慎重さであり、無事に離岸せしめ、船長や乗客、船会社からとても感謝され、ひいては神戸のイメージアップともなったのである。

ポートアイランドが完成し、現在東の六甲アイランドが建設中の港は、以前と比べてかなり水域が狭くなった。

その上、常時九十隻―百隻の船が停泊している。こうした所で風の強い日や潮の流れの速い時に、起大型船を出入りさせることは難作業であるので、強力なパワーのタグボートが三、四隻応援し船を回頭させるのだが、これが港のあちこちで同時に行なわれた場合には、さすがの業務用無線も混線してバンク寸前となり、水先案内人の熱のこもった声を聞き分けるのに苦労すると、タグボートの乗組員から教えられた。

二、騒音公害

「へえー汽笛が港の騒音公害か」とまず驚かれるに違いない。

一九六〇年代から始まった「雇用安定」、「生産向上」、「輸出増進」のための高度経済成長、なる程確かに目的は達せられ、その効果は大であるが多くのひずみが生じた。

それは数々の環境汚染による「公害」問題である。

「神通川のイタイ、イタイ病」、「水俣病」、「カネミ油脂のPCB事件」等、とても恐しい生体被害として起こったのである。

これらによって最近何かと自分達の生活に支障をきたすことに「公害」と名付けることが一般化した。例えば

「車」、「新幹線」、「排気ガス」、「汚水」、「食品」、そして「騒音」と数えあげればきりが無い。勿論多数の人々が日常何らかの形で迷惑をこうむるので、この様な名称がつけられたのであろう。

港で船の吹き鳴らす汽笛がやかましく「騒音公害」と呼ばれていようとは……。これはすでに二年前に私が知人から聞いた本当の話なのである。

しかし考えるとあながちうなづけなくもないのであって「港の住人の気質も変わった」と驚かないで欲しい。かつて港には音が溢れていた、いや渦巻いていたといっても過言ではないだろう。

客船や貨物船の大型船を初め、港湾の小型船が鳴らす汽笛、焼玉エンジンを搭載するボンボン船、貨物船の蒸気ウインチ（揚貨機でシュー、ガッチャンガッチャンと大変な音）、造船所で鉄板や鋏を叩くハンマー、臨港線の鐘等、中にはこち良いものもあるが、大半は騒がしく頭の痛くなる音響であった。

しかし言いかえればそれらの音によって、港の活気が感じとれたのだ。

時代の進展につれ、機械の改良、技術の開発が急速に行なわれ、船も造船所も波止場も極めて音をたてなくなり、港内がいつの間にかとても静かになってきたのであるが、汽笛だけは船の必要な信号なので、鳴らさなくては航海に支障が生じるので、適宜使用している。その上規定が改正され、新造船から順次音圧の強い汽笛となり次第にその数を増している。それならば静かになった港からもっと聞こえてきて良さそうなものだが……。

港の海岸通り付近には十五年程前から住宅やホテル等住居が進出して、人々が昼夜生活を営んでいる。勿論その中には旅人もいるし、幼児や老人、病人が住んでいるかも知れない。昼間は兎も角も、早朝や深夜に大きな汽笛の音を聞くと大変な驚きを感じるので「出来れば鳴らさないよう、でなければ回数を少なくして欲しい」との要望が人々の会話の中から生じ、いつの間にか船会社や船員の耳に伝わって来たのである。

これは私共としても心情的にはうなづける話である。

一般社会的にも次第に平穩になっていて、静かさを求める「静穩権」なる権利も登場しつつあり、国鉄や私鉄も駅や車内でアナウンスのボリュームを小さくするように心掛け始めている。東京の国電二、三の駅が、アナウンスを必要最少限にとどめ、とても新鮮で好評であったと報道されていたのも記憶に新しい。

各船長も「それなら必要最少限の汽笛にしよう。」と努めて使用回数が少くなり、早朝、深夜と多大な迷惑の及ぶ時間帯には、住宅の近い場所ではほとんど鳴らしていないのである。これを決定的にしているのは、昭和五十三年七月に改正になった港則法の第二十八条に「船舶は港内においてみだりに汽笛又はサイレンを吹き鳴らすはならない」と記載されてある。

海運局の検査官によると、造船所において大型船の汽笛のテストをする場合には、前もって神戸港長に鳴らす時間と回数を届けているとの話。港内では余りにも音が大きいので、他の大型船との信号が混同することを避けるのは勿論だが、やはり周辺地域への配慮もなされているのではあるまいか。

ぶつく・えんど

広島の原爆を描いた画家 丸木位里さん、俊さん夫妻の「原爆の図」展が、神戸の主婦グループらの働きかけで六月十六日～二十一日の六日間、神戸市中央区中山手通四丁目の県教育会館で開かれる。昨年の文部省の教科書検定で「悲惨すぎる」と削除された「第八部・救出」も含まれており、神戸では初公開。同展の観賞券は当日券一般四百円、中高生二百円、小学生百五十円。観賞券は当店にてお求めいただけます。お問い合わせは県教育会館（電話二九一〇八九一）まで。

〔朝日新聞・五月十二日〕

* * *

哲学・思想の専門出版社 理想社が創立五五周年を記念して在庫二割引の謝恩セールを実施している。新再版制移行後、本の値引き販売は、公取委員長の「定価表示なし本」や、公取の本が定価をつけずに流通した他、東販の企画した「自由価格」本、大学生協の「全集セット

これらの話は神戸港に限っていない。大阪では「南港ポートタウン」、明石では「マンション」と各港の海岸線添いに沢山の人が住む住宅が次々と出現し、港の機能と住宅が一体となり「職住近接地域」を構成している。加えて汽笛も規定が変わり、音圧が以前にも増して高くなり大きな音を発することとなった。したがってこの問題は恐らく他の港へも波及して行くものと予想される。

先頃発表された、五十六年度の「環境白書」によると、五十年代に横バイを続けている国民の被害者意識の中で「騒音」、「悪臭」、「振動」の三つの感覚公害は増加傾向にあると指摘し、警告を発している。

BGMは適度な音量の時には、人の心を安定させ効果があるのだが、音量が大きくなると反対に騒音となり、返って逆効果になる恐れがある。

さて今回は同じ船乗りとして、とても苦しい点にスポットをあてなければならぬ。海運業界の将来のためにも。

つづく

フェア」、それに昨年十一月の学術出版社 創文社の二割引謝恩セールなどがある。現在実施されている理想社の「記念セール」は、六月三十日までに、直接同社へ申し込んだ読者に販売するというもの。代金は原則として前払いで送料は出版社が負担する。カント・ニーチェ全集、ハイデッガー・ヤスパース選集、ロロ伝記叢書などが二割引で手に入るチャンス。

お申し込みは直接理想社まで。

〒162 東京都新宿区赤城下町

理想社（電話

〔出版ニュース・五月下旬号〕

* * *

第28回青少年読書感想文全国コンクールの「課題図書」が決定した。例年通り、小学校低学年の部4点、小学校高学年の部4点、中学校の部3点、高等学校の部3点の計14点。

△小学校低学年の部▽

「けんぼうは一年生」ポプラ社・岸武雄作／二俣英五郎
絵・九八〇円

「こんにちはさまにさしあげそうろう」P H P 研究所・森はな作／梶山俊夫絵・九八〇円

「おぼあちゃんの犬ジョータン」岩崎書店・安藤美紀夫作／水沢研絵・一一〇〇円

「オコジョのすむ谷」あかね書房・増田房樹写真・文・一一〇〇円

△小学校高学年の部▽

「きみはダックス先生がきらいか」大日本図書・灰谷健次郎作／坪谷令子絵・九六〇円

「わんぱくタイクの大あれ三学期」評論社・ジーン・ケンプ作／松本享子訳・一一〇〇円

「峠を越えて」小学館・菊地澄子作／伊勢英子画

「さと子の日記」ひくまの出版・鈴木聡子著・二二〇〇円

△中学校の部▽

「家出12歳の夏」文研出版・マリオン・デーン・パウアー作／平賀悦子訳・八八〇円

「とねと鬼丸」講談社・浜野卓也著／高田三郎絵・九八〇円

「運命は扉をたたく」リブリオ出版・ひのまどか作・一

二〇〇円

△高等学校の部▽

「いのち生まれるとき」理論社・早船ちよ作／中島保彦絵・一一〇〇円

「つかのまの二十歳」集英社・畑山博著・九八〇円

「いくさ世（ゆう）を生きて」筑摩書房・真尾悦子著・

一一〇〇円



郷土誌の窓

神戸新聞四月十五日付に掲載されている、大阪にちなむ歌をまとめた歌集『大阪のうた』が好評で、何人かから問い合わせがあった。記事によると、このユニークな歌集を出したのは大阪市の外郭団体、大阪都市協会で、戦前、戦後の大阪をテーマにした歌謡曲、民謡、歌曲、唱歌など計四百六十九曲が収められているという。同協会が歌を集め、分類した結果分かった大阪の歌の題名で一番多いのは「大阪の夜」で六曲。第二位が「大阪ブルース」の四曲。歌手では、フランク永井と藤島恒夫が各十四曲でトップを占め、作詞家では西条八十（十三曲）、作曲家は吉田正（二十三曲）となっている。この本は文庫版で三百八十二ページ。入手したい方は定価八〇〇円、送料二五〇円を添えて左記にお申し込みください。

〒540 大阪市東区京橋

大阪都市協会

『神戸生糸検査所史』という本が発行された。B5版、布クロス張り二百二十三ページの本。朝日新聞四月二十五日付に、「勤めあげた証」発刊」と題して記事が出て

いる。この記事によると、行政改革で消えた神戸生糸検査所の八十余年の歩みをまとめた初めてで最後の所史で、開設から閉所までを、前史、農林省神戸生糸検査所の戦前、戦後、行革と生糸検査所、資料の五編にわけ、波乱に富んだ歩みを集大成したもの。生糸検査所は、横浜検査所とともに明治二十九年に創設。輸出減で五年後に一時閉鎖されたが大正十三年に、神戸市立生糸検査所として新設され、昭和六年、国に移管された。このころが生糸生産のピークだった。最近では、化学繊維の出現で需要が激減し、五十五年九月三十日に行革で閉所した。その業務は、神戸農林規格検査所に統合され、旧職員がここで国内向けの生糸検査にあたっている。『所史』は限定七百部印刷し、OBや関係者に配る。

郷土史家・落合重信先生の新著が国書刊行会から発行

された。「地名研究のすすめ」(二八〇〇円)がその本である。落合先生は部落史や条里制、図書館関係など多くの領域ですぐれた研究をされてきたが、ここ一年間は「地名」に関するものが一番活字になっていくようだ。

昨年は兄・落合長雄氏に協力して『神戸市小字名集』を刊行し、「神戸新報」に連載されていたものをまとめて『兵庫県の地名・神戸市の地名 地名に見る生活史』を刊行しておられる。今回の『地名研究のすすめ』は、過去に発表されてきた論文を集成されたものだが、実にその年月は二十五年にわたる。「神戸市域にのこる焼畑慣行地名」(地名学研究四・昭和三十二年)から今日まで「地名」に関する論文は多い。この本が地名に興味をもち、地名を通じて歴史への関心をかきたててくれることを願わずにはいられない。

* * * * *
神戸新聞五月十五日付第一面に、橋本政次著「姫路城史」(名著出版刊・全3巻)が限定一五〇組復刻されるという広告が出ているのが目についた。広告によると、(本書の特色)として、◆姫路城の規模・構造を明らか

歴代館長(荒尾親成・折茂英雄・笹部一良)の座談会など、この美術館の栄光の姿、苦心の歴史をよくとらえている。

* * * * *
日刊神戸っ子編集室の編んだ『神戸&神戸ーファッションナブル神戸ガイドー』が届いた。『ワンダフル神戸』と似た内容だが、幾分こちらの方がコンパクト。プレイゾーンやうまいもの、ショッピングの記事と広告で埋められている。新鮮さのない本だが、ハンディなところが良い。

* * * * *
「ろくさん」の14号が自宅に届いたのは、昼間ビール二本飲んだあと、二才の子ども相手にヨロヨロダンスをやっていた二十日午後二時ごろのこと。封を切って久しぶりの活字を見たたん、酔いはますます激しくなっていた。「そや、そや、そやんかい」と口に出して、つい訳もわからぬ子どもに怒鳴りちらすありさま。神戸市民病院のこと、神戸沖の空港のこと、神戸市の開発のこと、りゅういんの下がる思いの文章ばかり。公平を装う新聞なんかより「ろくさん」を読んだ方が、世の中の根

にする◆姫路城を中心とした中国地方の歴史◆周到な調査と精密な考証に基づき、姫路城の歴史を立体的に叙述◆年表を増補し、写真を新しくしたとある。A5判・総二五〇〇ページ、六月下旬に全3巻同時配本される。定価は三冊揃いで三三〇〇〇円、六月末日までは予約特別揃定価三〇〇〇〇円。ご注文、お問い合わせは左記まで。

中島書店
〒672 姫路市飾磨区東堀
電話

* * * * *
南蛮美術館が消えた。三月末で閉館となり、その収蔵品は今秋十一月にオープンする市立博物館に移されることになった、という記事は多くの人たちの目にとまったことだろう。南蛮美術館の長い歴史をしめくくった最後の展示は、創設の人・池長孟さんの「コレクション名品展」だったことは各新聞の紙面に大きく報道された。神戸名所の一つだった。この「市立南蛮美術館のあゆみ」を「市民のグラフ・こうべ」(一一五号)が特集している。池長さんの写真・文章・ハガキ、南蛮美術館の逸品、

元が見えてくるから不思議だ。「ろくさん」はポカリ・スウェットをこえて、この初夏一番の清涼剤。健康増進のために、あなたもどうですか。読んでみたいと思われる方は、

〒653 神戸市長田区西山町
電話
ろくさんの会

までお申し込み下さい。

* * * * *
五月三日の神戸新聞に『兵庫県工場名鑑・昭和57/58年版』(定価八〇〇〇円)が刊行されたと報じられている。記事によると、発行したのは兵庫県商工会議所連合会で、県下約一万二千のメーカーを網羅、各社の資本金、従業員規模をはじめ、主力取引金融機関も記載しており、商売上の参考資料として役に立つ、という。一〇〇〇部を販売。お申し込みは神戸など県下十六の商工会議所まで。

* * * * *
尼崎市内の小学校の先生が十一年がかりで地学の参考

書を自費出版、という記事が五月十三日の朝日新聞に出ている。内容を紹介すると、書名は『大阪平野はどのようにしてできたか』でB5判、八十八ページ。作成したのは尼崎市立武庫北小教諭・大石哲男先生(33才)。大石先生は子供たちを教えているうち、子供たちが郷土のおいたちを知らず、教科書にも地元の話がほとんど触れられていないのに気付いて、知りあいの大学教授や小・中学校の教師、郷土史家をたずねたり、尼崎市史などを手さぐりで調べ、大阪平野の歴史などを尼崎に関連づけながらまとめた。七百冊を印刷、希望者には一冊四〇〇円(送料二〇〇円)でわけける。

同じ、五月十三日のサンケイ新聞には、昨年創立六十年を迎えた灘神戸生活協同組合の婦人活動の歴史をまとめた『私たちの歩み・婦人活動60年』が発刊されたことが出ている。記事によると、生協として日本で最も歴史があり、最大規模の同生協とともに、これまで様々な変遷をとげてきた主婦の消費生活運動の歴史をまとめたもので、大正十三年に結成された「家庭会」活動から、

現在の生活文化活動にいたるまでの約六十年のあゆみをわかりやすく編集した本。二百六十五ページで四千二百部発行。入手希望の方は、送料とも切手七百五十円分を同封して、

神戸市東灘区住吉町中島

灘神戸生活協同組合広報部

「私たちの歩み」係

へ、お申し込み下さい。

読売新聞五月二十五日付に『神戸水上警察百年の歩み』(B5判・九十六ページ)が完成し、五百部が関係者に配られたという記事が出ている。記事によると、明治十

四年に神戸警察署水上臨検所として発足以来、ミナトのお巡りさん”として海の守りに努めて来た活動の様子が、貴重な百七十点余りの写真とともに紹介されており、神戸港の歴史をとどめる資料となっている、という。本は、沿革、写真集、活動略史、統計資料の四つのパートに分かれている。注目されるのは写真集で、慶応三年(一八六八年)の神戸港開港風景や、船舶通信機器が未

発達な昭和十年ごろに陸と海の通信に使われた伝書バト、戦時中のB29による神戸港空襲の様子、昭和三十八年荻藻沖での「ときわ丸」衝突事故で四十七人が死亡した事故などめずらしい写真ばかりで、時代を映す楽しいアルバムになっている、という。

兵庫歴史教育者協議会がこのほど『兵庫歴史散歩①阪

神・神戸・淡路・東播』『兵庫歴史散歩②西播・丹波・但馬』(各九〇〇円)を作成、書店の棚にお目見えした。発行は歴史散歩刊行会で発売は草土文化。この本はその

書名の示す通り、兵庫県下の歴史を訪ね歩くためのガイドブック。山川出版発行の『兵庫県の歴史散歩』(上・下)同様に広く、長く読みつがれていくことを願いたい。この本は、兵庫歴史教育者協議会に参加する先生を中心に、これまでの歴史研究や地域の掘り起こしの成果を、次のような観点から編集したもの。

第一は、自分たちの住む地域の歴史を、民衆の立場から見なおすことを基本とした。

第二は、読者が、具体的な史跡・遺物を通して歴史

の流れを考えられるよう試みるとともに、地域の文化財保護の問題も積極的に取りあげるようにした。

第三は、地域に残る伝統産業の歴史にもふれ、生産と労働の姿を考えられるよう試みた。

第四は、近・現代の歴史に迫り、公害や戦争と平和を考えるうえで大事なものを取りあげた。

第五に、『神戸の町に世界を歩く』など、世界的なかに地域を見ることも試みた。

写真や地図が随所に入っていて、内容も盛り沢山。歴史への入口を案内する本として格好の一冊だ。

神戸市立教育研究所の『神戸の自然シリーズ』10冊目が刊行された。『六甲山のブナとイヌブナ林』(八〇〇円)がその本。いつもこのシリーズに出会うと感心することだが、造本がていねいで、カラーグラビアが美しい。内容は教材としても充分活用できるよう図版・写真が豊富に入っているうえ、文章もやさしい。

「六甲山の南斜面にブナが生えている事実」は、従来の

北斜面にしかブナが残っていないとする定説を覆す
新発見です」

六甲山にブナの自生地があるという発見とそれに続く、
教師としての問題の提起とその応答の中に、単なる「こ
んな珍しいものを発見しましたので紹介します」調のガ
イドブックではない、ハツラツとしたもの、アクティブ
に教育をとらえていく教育の心のようなものを感じる。
この本は当店にてお求めいただけます。

(N)

海文堂案内版

★二階にあがる階段横のところに「ニュージャーナリズム
ム」のコーナーを新設しました。このコーナーでは、ジャー
ナリズムの世界で活躍している人たちの本をそろえてい
ます。本多勝一・柳田邦男・立花隆・落合信彦・斎藤茂
男・田原総一郎・沢木耕太郎・児玉隆也・角間隆・上前
淳一郎など数多くの著者の本を、著者名別に展示してい
ます。著者名の標示を出していますので、それを目安に
本をお探し下さい。

★新書コーナーでは「文庫と新書で読む・謎の古代」を
六月中開催します。ミニフェアですが、謎の大陸・民族
・文字に焦点をあてて選書してみました。点数は四〇点
ぐらいです。

★二階のギャラリーでは、六月一日から十三日まで「ビ
ュッフェ「カルメン」展」を開催中です。新作十五点プ
ラス五点を展示。

六月十九日から月末までは「ベトロピッチ展」を開催

いたします。メルヘンタッチの美しい絵画をお楽しみく
ださい。

★ブックプラザでは、六月七日から三週間「異国の街角
から」各国お国事情「V」を予定しています。世界各地の
生きたレポートをお届けします。

★今年の課題図書も「ぶつく・えんど」でお知らせしま
した通り決まりました。児童書ゾーンに「課題図書コー
ナー」を作りましたので、お立ち寄りください。

★六月十六日から二十一日までの六日間、兵庫県教育会
館で開催される丸木位里さん、俊さん夫妻の「原爆の図」
展の前売りチケットをお取り扱いしています。ご希望の
方は二階ギャラリーにてお申しつけください。一般三〇
〇円、中学生一五〇円、小学生一〇〇円です。